

瀬戸内町 寄付募り協会が民有地購入

すし地トラスト看板と標識設置

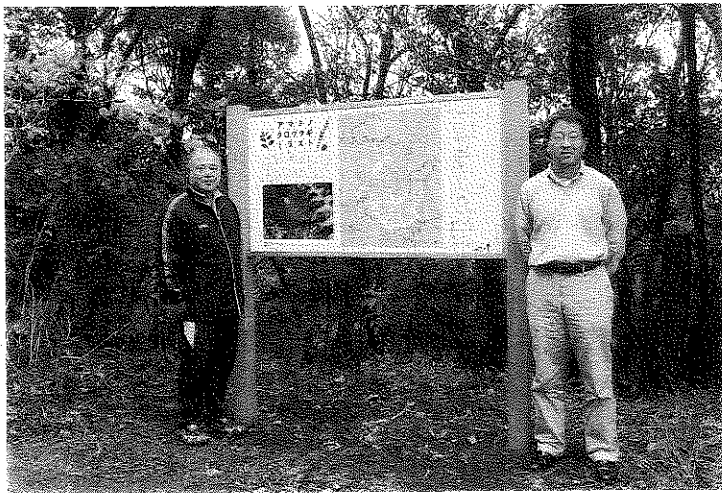
（社）日本ナショナル・トラスト協会が進めていた瀬戸内町のトラスト地「アミミノクロウサギトラスト」にこのほど、トラスト地を示す案内看板と標識が設置された。18日には同会の事務局長・関健志さんと、トラスト地のある同町古志集落区長・佳和也さん（32世帯、60人）が同地を訪れた。

集落も協力の動き

トラスト地の地図と線と林道古志線の分岐名称などを記した看板、点に設置。宇検中央1号線と宇検中央1号線を3号線と進んだ

地点にはトラスト地であることを記す標識があることを記す標識がサイクルウッド（再生

保全活動を目的に、今年1月に同町の民有林約100畝を民間から寄付を募って購入。リ



設けられた。同地はアミミノクロウサギを豊かな自然のシンボルに掲げた環境林道宇検中央1号線と林道古志線の分岐点に設置された案内看板を確認した関さん（右）と佳さん



トラスト地のスタート地点を示す標識にはアミミノクロウサギのキャラクターも

木材などを利用して作られた看板は、同町古仁屋の店舗看板などを制作する、くじらぐも（根元一機代表）が制作した。

関さんは「この活動は、私達は自然を守ればという思いからだが、地元の人がどう思うかが気になっていった。しかし、トラスト地は古志集落の集水域な

ので、開発すると住んでいる人にも影響が出る。トラスト地をきつかけに集落にも人が来てくれたり、この地のきれいな水で育てたタシカンがブランドを持つなど、経済的にもプラスになればいい」と語った。

佳さんは「山からの水は飲料水や農業用水として使っているの

で、いつして自然を守ることできるかなを伝えることが一番。今はまだ集落全体でトラスト地について話してはいないが、個人としては協力していきたい」と話した。

関さんは視察後には募金活動に取り組んだ古仁屋高校と、西南水産棟などを訪問。協力への感謝を述べた。